

新市15年の歩み

花かおり 緑あふれ 人輝くまち

前編

新市建設計画

計画期間／平成17年度～令和2年度（15年間）

将来都市像

花かおり 緑あふれ 人輝くまち こうのす

地域づくりの整備方針



〔吹上地域〕

桜とコスモス彩る
地域づくり



〔鴻巣地域〕

ひな人形と花を
生かした地域づくり



〔川里地域〕

花と緑につつまれた
住みよい地域づくり

平成17年10月1日、1市2町が合併し、新鴻巣市が誕生しました。合併時に新市のまちづくりのマスタープランとして策定した新市建設計画の計画期間が終了したことから、計画の総括として、新市のまちづくりと合併の効果を総合的に検証した「鴻巣市・吹上町・川里町合併検証報告書」を本年3月に作成しました。

本号では、報告書の内容をもとに新市15年の歩みを紹介いたします。

問い合わせ／総合政策課企画担当（内線2236）

7年連続 転入超過

全国の自治体で人口減少が進む中、本市の人口も平成22年6月の121,087人をピークに減少傾向が続いていますが、吹上・川里地域の人口は増加傾向にあります。

また、自然増減（出生数と死亡数の差）は減少傾向である一方、社会増減（転入者数と転出者数の差）では、平成27年以降、増加の状況が継続しています。

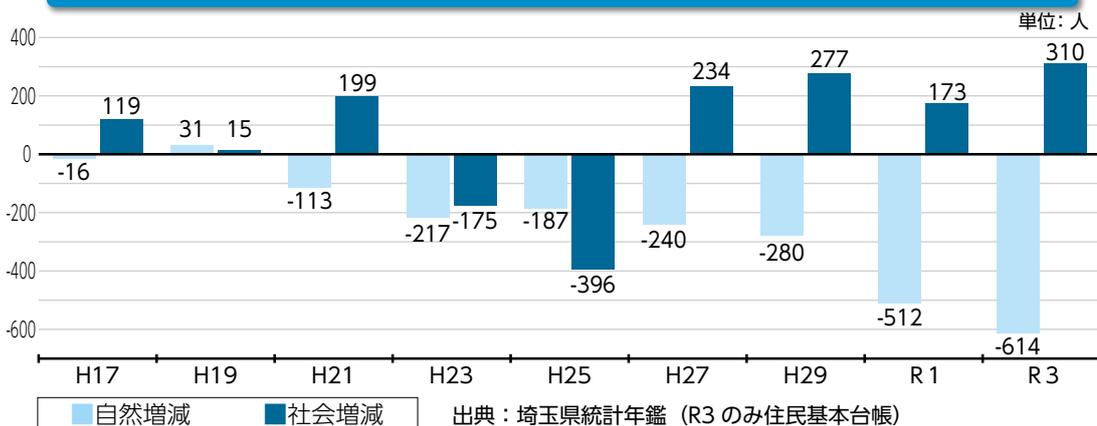
吹上・川里地域の人口が増加

人口の推移（各年10月1日）



転入超過が継続

人口移動の推移



約**455**億円

行財政改革

約**175**億円

総額約**630**億円の
財政効果！

合併による主な財政効果

合併した市町村に対して、国や県からさまざまな財政上の措置があり、これらを主な財源として新市のまちづくりを推進しました。

国などからの財政支援（約455億円）

■普通交付税^{※1}算定の特例（合併算定替）…約164.4億円

合併により普通交付税が減少しないようにする優遇措置です。特例として合併前の市町ごとに算定した普通交付税の合算額が保障されます。

交付年度	普通交付税算定額		
	通常算定額①	特例による算定額②	特例による効果額 (②-①)
H17~R2	約617.8億円	約782.2億円	約164.4億円

■合併特例債に対する交付税措置…約250.4億円

合併特例債は、合併市町村が新市建設計画に基づき借入れすることができる地方債^{※2}です。

毎年度返済する元利償還金^{※3}の70%が普通交付税によって措置されるため、実質的な負担は約30%となる有利な財源です。

地方債借入額 (事業費の95%)	元利償還金	交付税算入見込額
約327.6億円	約357.7億円	約250.4億円

合併特例債を最大限活用することで、多くの事業が可能となり、3地域の均衡ある発展に活用されました。

活用した主な事業は4ページで紹介します。

地域	起債額	割合	合併時人口	1人当たりの金額
鴻巣地域	約127.3億円	38.8%	84,385人	約15万円
吹上地域	約75.3億円	23.0%	28,437人	約26.5万円
川里地域	約35.9億円	11.0%	7,980人	約45万円
全域にわたるもの	約89.1億円	27.2%	120,802人	約7.4万円

■その他の財政支援…約39.9億円

普通交付税措置：約8.7億円、特別交付税措置：約6.8億円、合併市町村の振興のための基金造成に対する合併特例：約18.9億円、合併市町村補助金：4.5億円、県による財政支援：1億円が交付されました。

行財政改革を推進（約175億円）

■職員の人数削減…約160億円

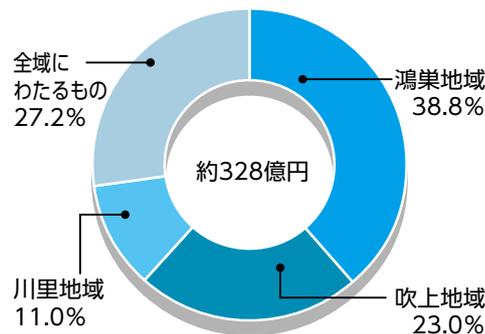
特別職（市町長・助役・収入役・教育長）などは合併により人数が減少。一般職員は、合併時の880人から700人体制へ人数を削減し、累計で約160億円の削減効果がありました。

■議会議員の定数減少…約14.8億円

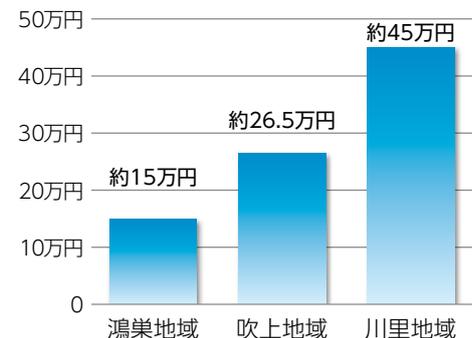
合併時は定数56人でしたが、平成23年までに段階的に定数26人へ減少し、累計で約14億8千万円の削減効果がありました。

合併特例債

[地域ごとの活用割合]



[1人当たりの活用額]



[用語解説]

- ※1 普通交付税…市の標準的な必要経費に対し、市税等の収入見込み額が不足する額について国から交付されるもの
- ※2 地方債…市が1会計年度を超えて行う借入れ
- ※3 元利償還金…市が行った借入れに対する元金及び利子の返済金

3地域の均衡ある発展を実現

合併特例債は、市内3駅の駅前広場及び周辺環境の整備のほか、各地域の交流拠点施設、学校・教育施設、土地区画整理事業や公園整備など約70事業に活用し、新市の均衡ある発展と一体性の確立に向けた都市の基盤整備を推進しました。

合併特例債の活用により、合併前の1市2町単独では推進が難しかった事業が着実に進展しました。

合併特例債を活用した主な事業



鴻巣駅東口

（令和2年3月）

構想開始は昭和40年代。長年の懸案であった市の玄関口が新しくなりました



コスモスふきあげ館

（平成26年12月）

吹上地域の拠点となる複合施設（支所・生涯学習センター・児童センター・図書館併設）ができました



花久の里

（平成19年5月）

旧青木正久邸をリニューアル。旧家のたたずまいを残す特別な空間でゆったりとした時間を過ごせます



北鴻巣駅西口

（平成21年4月）



吹上駅北口

（平成21年4月）



かわさと館

（平成26年1月）



フラワー号市内全域運行

（平成21年4月）



市民活動センター

（平成25年4月）



吹上中学校校舎

（平成23年8月）



上谷総合公園

（平成27年5月）



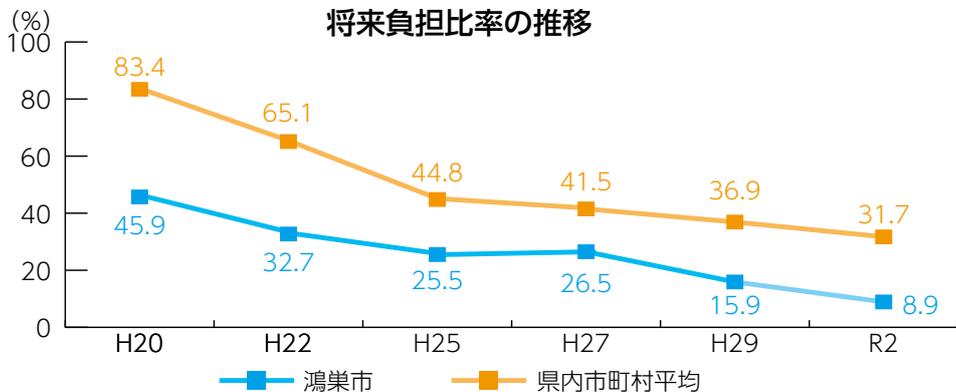
中学校給食センター

（令和3年1月）



将来世代に負担の少ない財政運営を継続

合併後のまちづくりでは、合併特例債などの有利な財源を積極的に活用したことで、県内市町村の平均と比較しても将来負担比率が低く抑えられています。



将来負担比率とは

財政健全化法で定められた健全化判断比率のうち、借入金（地方債）など現在抱えている負債の大きさを、市町村の財政規模の割合で表したもので、数値が低いほど将来世代に対する負担が少ないことを示しています。

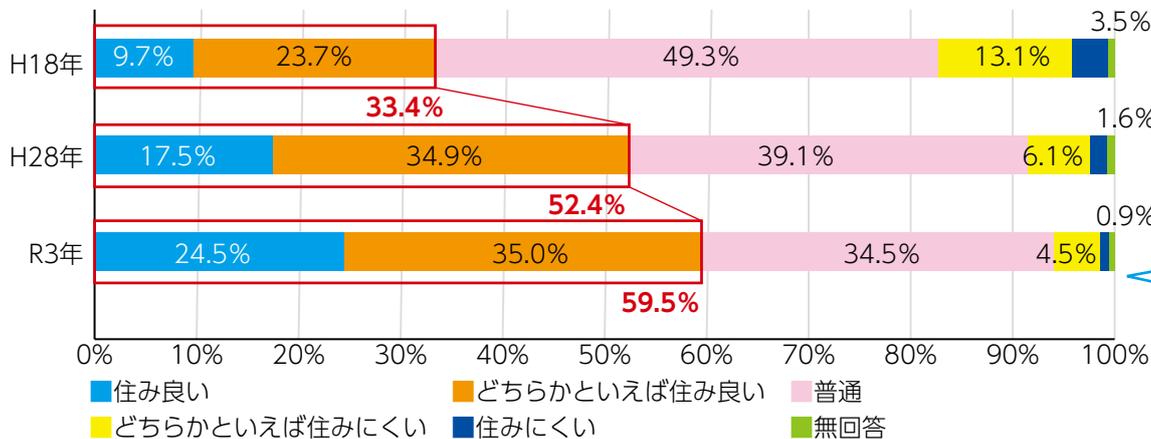
市民の皆さんの満足度がUP!

毎年実施している「まちづくり市民アンケート」(4,000人を対象) 結果から、本市への満足度を検証しました。

「住み良いまち」と感じている人が増加!

本市が「住み良い」「どちらかといえば住み良い」と感じている方の割合が、15年間で33.4%から59.5%と26.1ポイント上昇し、まちの利便性が高まり、住み良いまちづくりが推進されていることがわかります。

現在の鴻巣市は住み良いまちであると思いますか



どちらかといえば住みにくい、住みにくいと回答した方が大幅に減少しています

まちづくりへの評価が向上!

総合振興計画における各施策の満足度を5点満点で数値化すると、平均点が2.78点(平成18年)から3.10点(令和3年)へ上昇しており、新市のまちづくりに対する市民の満足度が向上していることがわかります。

平成18年調査結果

順位	施策	点
1	上水道の整備	3.31
2	下水道等の整備	3.10
3	人権尊重の推進	2.95
4	市民文化の創造と交流の促進	2.94
5	資源循環型社会の形成と地球環境の保全	2.94
33施策平均		2.78

令和3年調査結果

順位	施策	点
1	上水道の安定供給	3.67
2	汚水処理の推進	3.43
3	生活環境の整備	3.32
4	健康づくりの推進	3.19
5	子ども・子育て支援の充実	3.16
28施策平均		3.10

合併検証報告書は市HPで公表しています ▶



生活環境の整備、健康づくり、子育てに関する施策満足度が上位にランクイン

